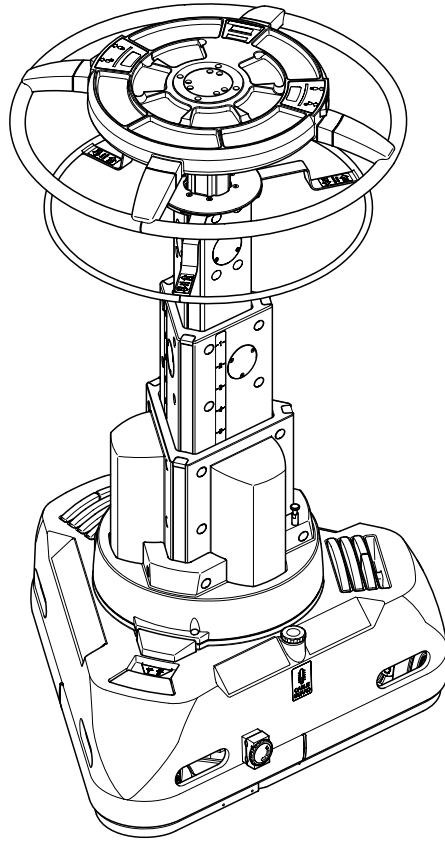
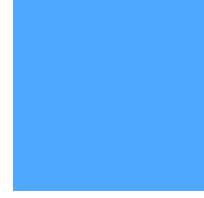


操作ガイド

Quattro-SL



パラスタル

Vinten
Camera Control Solutions

Quattro-SL

ペデスタル

印刷物品番 V3963-4980

Issue 1

Copyright © Vinten Broadcast Limited 2006

すべての著作権は世界各国で保護されています。この文書のいかなる部分も、Vinten Broadcast Limited の事前の書面による合意および許可なしに、フォトコピー、写真、磁気またはその他の記録方法を含むがそれに限らない取り出し可能なシステムへの保存、送信、コピーまたは複製を行うことはできません。

Vinten, Quickfit および Vision は、Vinten Broadcast Limited の登録商標です。



戻る

前書き

ヴィンテンの新製品 Quattro-SL ペDESTALをお買い上げいただき、ありがとうございます

新しい Quattro-SL ペDESTALの機能を十分にご利用いただくために、新しい機能について、この取扱ガイドをよく読んでおくことをお勧めします。またこの説明書には、安全についての情報と、この新しい製品をいつまでも完璧な状態でお使いいただくためのメンテナンスに関する説明が記載されています。

さらに情報が必要な場合は、www.vinten.com/register にオンラインで接続するか、同封のフォームに記入してヴィンテンにご登録ください。

新しい Quattro-SL ペDESTALの機能と利点

Quattro-SL ペDESTALは、フル装備のスタジオや屋外でカメラを使用するカメラマンの厳しい要求を満たすように設計されています。Quattro-SL ペDESTALは、多くの独自機能を持ち、フレーミングや正確なショット位置を繰り返し再現することができます。

- ・ 80 kg (176 ポンド) までの幅広い耐荷重。
- ・ 狭いベース幅と小さな置き場所によって、セットの入り組んだ狭い範囲でも標準の約 76 cm (30 インチ) の幅があれば通れます。
- ・ 低摩擦ホイールによって操作が軽くなり、敏感に反応するようになっています。
- ・ 100 cm (39.4 インチ) のオンショットストロークと最大高 148 cm (58.3 インチ) によって、多彩なアングルにプラットフォームを持ち上げ、視線を妨げることがなくなります。
- ・ バランス プロファイルによって、どのような荷重条件でも支柱を無理なく持ち上げることができます。
- ・ 調整可能なスカートがベースを保護し、損傷から保護して信頼性を高め、小さな直径のケーブルを床に通すことも可能です。
- ・ 足で操作するブレーキがあるため、ペDESTALを安全かつ確実に固定することができます。

Quattro-SL を選択していただき、ありがとうございます

長年にわたって信頼のおける性能を発揮することをお約束いたします。



戻る

安全について - 最初にお読みください

この取扱ガイドの警告記号



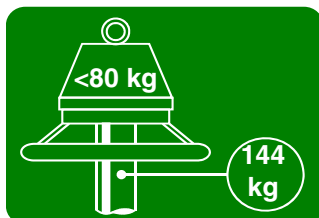
ペDESTALまたは関連する機材によって、使用者や他人に傷害を与えたり、頭部への傷害を発生させるリスクがある場所には、警告を示す三角形の記号をつけた「警告！」の文字を示して強調したコメントが記載されています。

ペDESTALに付けられている警告記号



警告を示す三角形または開いた本の記号が示されている場合には、このペDESTALを使用したり、調整や修理を行う前に必ずこの取扱ガイドを参照してください。

重要データ



重量

ペDESTAL	144 kg (317.4 ポンド)
調整ウェイト (11 個) 合計	7.5 kg (16.5 ポンド)

荷重

最大荷重	80 kg (176 ポンド)
------	-----------------



圧力

最大圧力	13.1 bar (190 psi)
最小圧力	3.5 bar (50 psi)



戻る

目次

	ページ
前書き	3
安全について - 最初にお読みください	4
重要データ	4
技術データ	6
使用方法	6
詳細情報	7
はじめに	10
操作	
開梱	11
コラム チェック	11
ステアリング機構の点検	11
荷重の調整	12
ペDESTALの加圧	
外部の圧力源を使用してペDESTALを加圧する	13
ウィンテンポータブルポンプを使用してペDESTALを加圧する	14
荷重の調整	15
Quattro-SL ペDESTALの使用	
高さの調整	16
ステアリング	16
パーキングブレーキ	16
ケーブルクランプ	16
ケーブルガード	16
運搬と保管	17
サービス	
一般的なサービス	18
定期的なメンテナンス	18
清掃	18
ステアリングの位置合わせ	19
ステアリングリングの交換	20
部品リスト	22

関連するマニュアル

Quattro-SL ペDESTAL
メンテナンス マニュアル
部品番号 V3963-4990



戻る

技術データ

荷重	80 kg (176 ポンド)
ペDESTALウエイト	144 kg (317.4 ポンド)
調整ウエイト	
メイン (5 x 1.0 kg)	5.0 kg (11 ポンド)
予備 (6 x 0.5 kg)	3.0 kg (6.6 ポンド)
最低高	48.5 cm (19 インチ)
最大高	148 cm (58.3 インチ)
オンショットストローク	100 cm (39.4 インチ)
ドアウエイトラッキング幅	81 cm (32 インチ)
トランジットドアウエイ幅	
小型ステアリングリング	74.5 cm (29.3 インチ)
大型ステアリングリング	82 cm (32.3 インチ)
最大動作圧	13.1 bar (190 psi)
リリーフバルブ圧	14.5 bar (210 psi)
最小動作圧	3.5 bar (50 psi)

使用方法

Quattro-SL ペDESTALは、テレビスタジオで 80 kg (176 ポンド) までのパン&チルト・ヘッド、カメラおよびその他の機器を支持しバランスを保つように設計されています。

Quattro-SL ペDESTALは、テレビカメラを使用するカメラマン用です。



警告! このペDESTALの使用法がわからない場合には、使用しないでください。
この取扱ガイドで説明されている範囲を超えるメンテナンスは、メンテナンス・マニュアルに示されている手順に従って資格を持つ担当者のみが行うことができます。



戻る

詳細情報

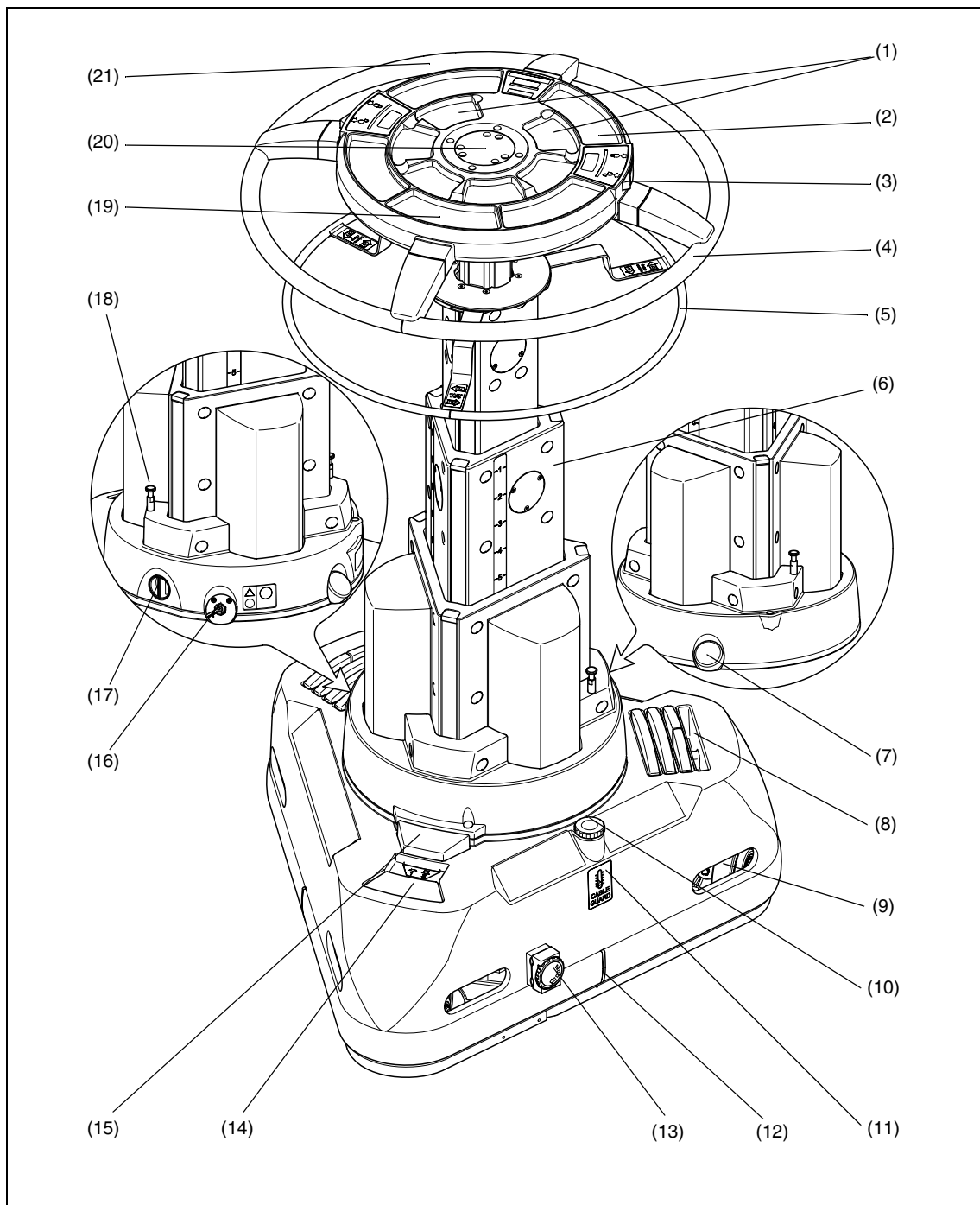
このペDESTALについての詳細情報およびアドバイスについては、Vinten Broadcast Limited または地域のヴィンテン販売店（裏表紙を参照）にお問い合わせいただくか、弊社 Web サイトを参照してください。

メンテナンスおよびスペア部品の詳細については、「Quattro-SL ペDESTALメンテナンスマニュアル」と「イラスト付き部品リスト」（部品番号 No. V3963-4990）を参照してください。これらのマニュアルは、Vinten Broadcast Limited または地域の Vinten 販売店で入手できます。オンライン情報については、弊社の Web サイトをご覧ください。

www.vinten.com.



戻る



Quattro-SL ペDESTAL



戻る

Quattro-SL ペデスタル

- | | |
|------|-----------------|
| (1) | 調整ウェイト - 予備 |
| (2) | ウェイトトレイ |
| (3) | セーフティキャッチ |
| (4) | ステアリングリング |
| (5) | コラムクランピングリング |
| (6) | 可動式コラム |
| (7) | オンショットクランプ |
| (8) | 圧力ゲージ |
| (9) | 調整ウェイト保管場所 |
| (10) | 持ち手穴 |
| (11) | ケーブルガード調整ノブ |
| (12) | ケーブルガード高さ計 |
| (13) | ケーブルマーク |
| (14) | ケーブルクランプ |
| (15) | 停止用ブレーキペダル |
| (16) | クラブ / ステア切替用ペダル |
| (17) | シュレーターバルブとキャップ |
| (18) | ドラッグコントロール |
| (19) | ロック栓 |
| (20) | 調整ウェイト - メイン |
| (21) | 4 ボルト型取付プレート |
| (22) | ステアリングインジケータ |



戻る

はじめに

Quattro-SL ペデスタルは、中央にある 4 段式の伸縮コラムが方向を変えられる台座に取り付けられています。

移動コラム (6) は外部加圧源により加圧されます。コラムの 2 番目のセクションにあるマーク付け可能な高さ計により、オペレータは撮影時のカメラの高さを記録できます。コラムの一番上にはウェイトトレイ (2) が取り付けられており、精度の高いバランスを得るためのトリムウェイト (1)(19) が提供されています。ウェイトトレイにはまた、パン・チルトヘッド用の標準の 4 ボルト式マウンティング (20) があり、その下側に取り付けられたステアリング・リング (4) を利用してペデスタルを操作します。ステアリング・リングには大口径と小口径があり、まっすぐな位置を示すためのインジケータ (21) を取り付けられます。

ウェイトトレイには、コラムのベースにあるスピゴットと組み合わせる 2 つの安全キャッチ (3) があり、これにより完全に押下した位置でコラムを固定できます。コラムのベースにはドラッグコントロール (17) があり、ステアリング・リングの下には、補助リングとしてオンショットクランプ (5) があります。

ベースは 3 組の 125 ミリメートル (5 インチ) ツインホイールで動きます。あらゆる位置が可能な、途切れのない高さ調整ケーブルガードが提供されており、下に高さ計 (11) のある単一の制御ノブ (10) によって上げ下げできます。トリムウェイトの収納場所はベースの上面 (8) にあり、垂直面に 2 つのケーブルクランプ (13) があります。ブレーキペダル (14) でパーキングブレーキを制御し、クラブ/ステアペダル (15) で標準ステアリングとクラブステアリングを切り替えられます。カメラオペレータはベースの各側面にある位置インジケータ (12) を使用して、ペデスタルの位置を正確に決めることができます。ベースの各側面にはリフティング用開口部 (9) があり、これらからもホイールにアクセスできます。



戻る

操作

開梱

ペDESTアルを開梱し、すべての梱包材と固定具を取り除いてください。



警告! Quattro-SL ペDESTアルの質量は 150 kg (331 ポンド) あります。ペDESTアルを持ち上げる際には注意してください。ステアリングリングを持ってペDESTアルを持ち上げないでください。持ち手穴 (9) を使用してください。この段階で、セーフティ キャッチ (3) を解放しないでください。

コラム チェック。



警告! 保持バルブの圧力は、ペDESTアルの圧力が圧力ゲージ (7) が黄色い部分で示される約 3.5 気圧 (50 psi) 未満に低下することを防いでいます。圧力がこのように下がってしまった場合には、コラムを伸ばす前にペDESTアルを約 3.5 気圧 (50 psi) まで加圧してください。

ペDESTアルの圧力が約 3.5 bar (50 psi) であることを確認します。必要に応じて、シュレーダーバルブ (16) を使用して減圧または加圧します。2

取り付けられている場合には、粘着式のセーフティキャッチ警告カバーを取り外します。

ウェイトトレイ (2) を、残圧に対抗して押し下げます。セーフティキャッチ (3) の位置で、ロッカー スイッチを解放位置にします。コラムを手で押さえながら伸ばします。

コラムを全体にわたって何度か動かします。

ウェイトトレイ (2) を押し下げて、セーフティキャッチロッカースイッチ (3) をロック位置に戻します。

ステアリング機構の点検

ステアリング・リングに装備されたステアリングインジケータは、図 5 のように、ステアリング (21) の下側にある 2 組のリベットから構成されています。

ステアリングインジケータ (21) をクラブ / ステアペダル (15) に合わせます。ペダル (16) を押して「CRAB Turn」を選択します。ステアリングリングを回転させ、すべてのホイールが一緒に回転し、すべて同じ方向を向くことを確認します。

ステアリングインジケータ (21) をクラブ / ステアペダル (15) に合わせ、ペダルを「STEER」に合わせます。ステアリングリングを回転させ、2 個のホイールがまっすぐな位置で固定され、3 個目のホイール (ブレーキペダルの下) がステアリングリングによって回転することを確認します。



戻る

荷重の調整

Quattro ペDESTALには、標準の 4 ボルト型取付プレート (20) が付属しており、パン & チルトヘッド、Quickfix および Mitchell アダプタを含むウィンテンのさまざまなカメラマウントを使用することができます。パン & チルトヘッドまたはアダプタを取り付けるには、可動コラムを伸ばす必要があります。



警告! 加圧したペDESTALは、セーフティキャッチが解放されているときには急激に上昇します。セーフティキャッチを解放しているときには、ペDESTALに寄りかからないでください。セーフティキャッチを解放しているときは、常にウェイトトレーに手をかけてコラムを押さえてください。

以下の手順でパン & チルトヘッドまたはアダプタを調整します。

ペDESTALの圧力が 3.5 bar (50 psi) を超えていないことを確認します。必要に応じて、シュレダーバルブキャップ (16) を使用して減圧します。



警告! 保持バルブの圧力は、ペDESTALの圧力が圧力ゲージ (7) が黄色い部分で示される約 3.5 気圧 (50 psi) 未満に低下することを防いでいます。圧力がこのように下がってしまった場合には、コラムを伸ばす前にペDESTALを約 3.5 気圧 (50 psi) まで加圧してください。

ウェイトトレー (2) を、残圧に対抗して押し下げます。セーフティキャッチ (3) の位置で、ロッカー スイッチを解放位置にします。コラムを手で押さえながら伸ばします。

オンショットクランプ (5) を取り付けます。

以下の手順でパン & チルトヘッドまたはアダプタを調整し、適当なボルトで固定します。

オンショットクランプ (5) を解放し、可動コラムを手で押しながら押し下げます。ウェイトトレー (2) を押し下げて、セーフティキャッチロッカースイッチをロック位置に戻します。



警告! ペDESTALは、カメラを取り付ける前に完全に押し下げた位置にしておきます。

ペDESTALを完全に押し下げた位置にロックして、取り付けるカメラおよび補助機材とパン & チルトヘッドの位置を合わせ、パンパー、プロンプタ、レンズなどのすべての部品の位置が合っていることを確認します。後からこれらの部品の取り付けると、ペDESTALのバランスが崩れる場合があります。

メイン (19) ウェイト 1 個と予備ウェイト (1) 2 個をウェイトトレー (2) に取り付けます。



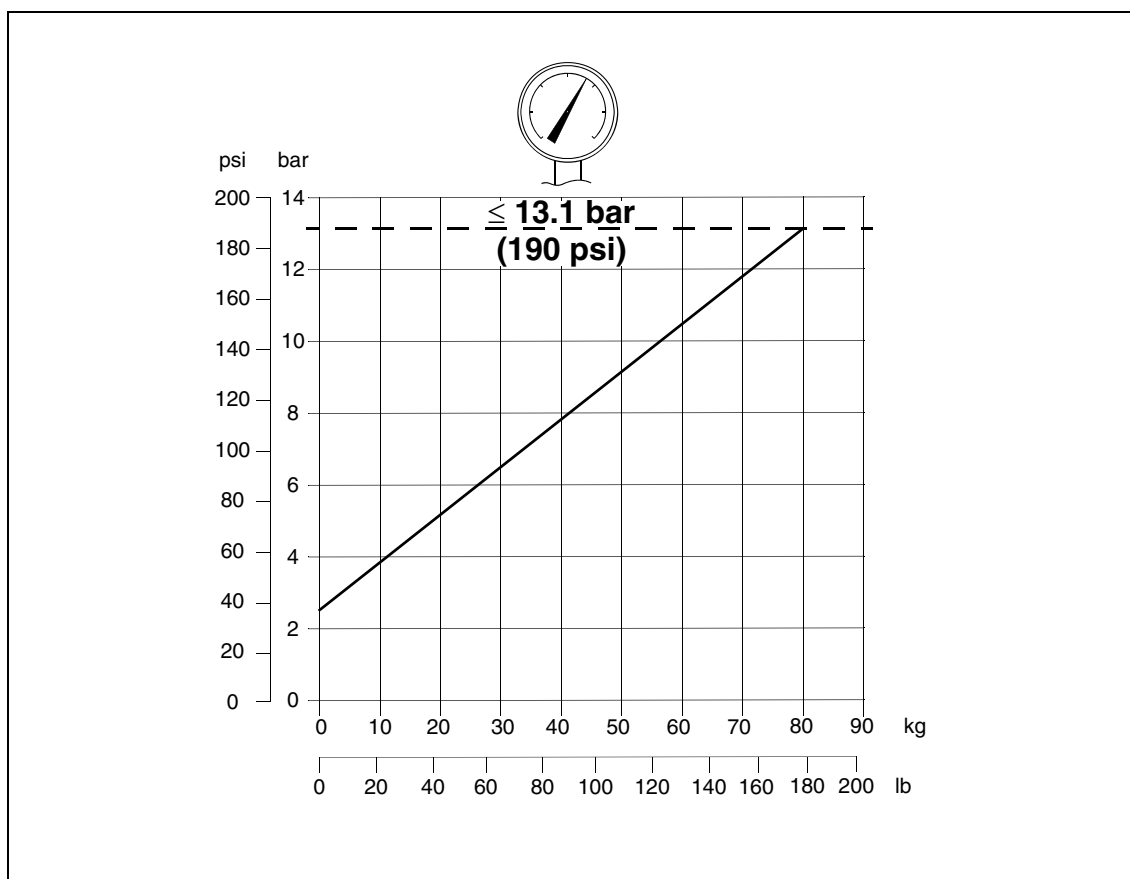
戻る

ペDESTALの加圧

Quattro は、外部の圧力源またはウィンテンポータブルポンプ（部品番号 3357-3）を使用して加圧することができます。調整ウェイト (1)(19) によって、細かいバランス調整が可能です。

ペDESTALに取り付ける荷重（荷重 = パン & チルトヘッド、カメラ、レンズおよびすべての補助機材）を確認します。グラフを参照して、横軸上に荷重をマークし、垂直方向に直線を引いて荷重の値を読み取ります。交点から縦軸に向かって水平線を引き、必要な圧力を読み取ります。

ペDESTALは、コラムがロックされず自由に伸ばせるように加圧します。



外部の圧力源を使用してペDESTALを加圧する



警告！ このペDESTALは、清浄で乾燥した空気または窒素のみを使用して加圧しなければなりません。ガスシリンダとホースの出力側との間の圧力を調整するために、減圧バルブを取り付ける必要があります。減圧バルブは、ガスシリンダの出口にネジ止めしなければなりません。減圧バルブの排気側の最大圧は、13.1 bar (190 psi) を超えてはなりません。ゲージの赤色表示の前縁で示されている最大安全動作圧力を超えてペDESTALを加圧しないでください。ペDESTALには、過剰な加圧を防ぐために圧カリリースバルブが取り付けられています。圧カリリースバルブの調整は行わないでください。

外部の圧力源を使用してペDESTALを加圧するには、以下の手順に従います。

シュレーダーバルブキャップ (16) を取り外し、圧力源の給圧システムを接続します。



戻る

ウェイトトレー (2) を、残圧に対抗して押し下げます。セーフティキャッチ (3) の位置で、ロッカー スイッチを解放位置にします。

圧力源を起動し、ペDESTALの圧力を必要な圧力までゆっくりと加圧します。ゲージ (7) の赤色表示の前縁で示されている最大安全動作圧力を超えないようにしてください。

給圧システムを切り離しますが、この段階ではシュレーダーバルブキャップを取り付けしないでください。

ヴィンテンポータブルポンプを使用してペDESTALを加圧する



警告！ ゲージの赤色表示の前縁で示されている最大安全動作圧力を超えてペDESTALを加圧しないでください。ペDESTALには、過剰な加圧を防ぐために圧カリリースバルブが取り付けられています。圧カリリースバルブの調整は行わないでください。

ヴィンテンポータブルポンプを使用してペDESTALを加圧するには、以下の手順に従います。

シュレーダーバルブキャップ (16) を取り外します。

ポンプの脚 (P.3) を両方とも下ろします。

ハンドルのリリースボタン (P.5) を押し、ハンドル (P.1) を水平の位置まで動かしてロックします。

ホース (P.4) を取り付けられている位置 (P.2) から取り外します。ホースをペDESTALの給圧バルブ (17) に接続します。

ペDESTAL上で、ウェイトトレー (2) を残圧に対抗して押し下げます。セーフティキャッチ (3) の位置で、ロッカー スイッチを解放位置にします。

脚の間にポンプを置き、両足をポンプの脚 (P.3) の上に置いて立ちます。

ハンドル (P.1) を両手で握り、ストロークいっぱいに動かして、ペDESTALを必要な圧力まで加圧します。ゲージ (7) の赤色表示の前縁で示されている最大安全動作圧力を超えないようにしてください。ペDESTALを完全に加圧するには、約 600 回のストロークが必要です。

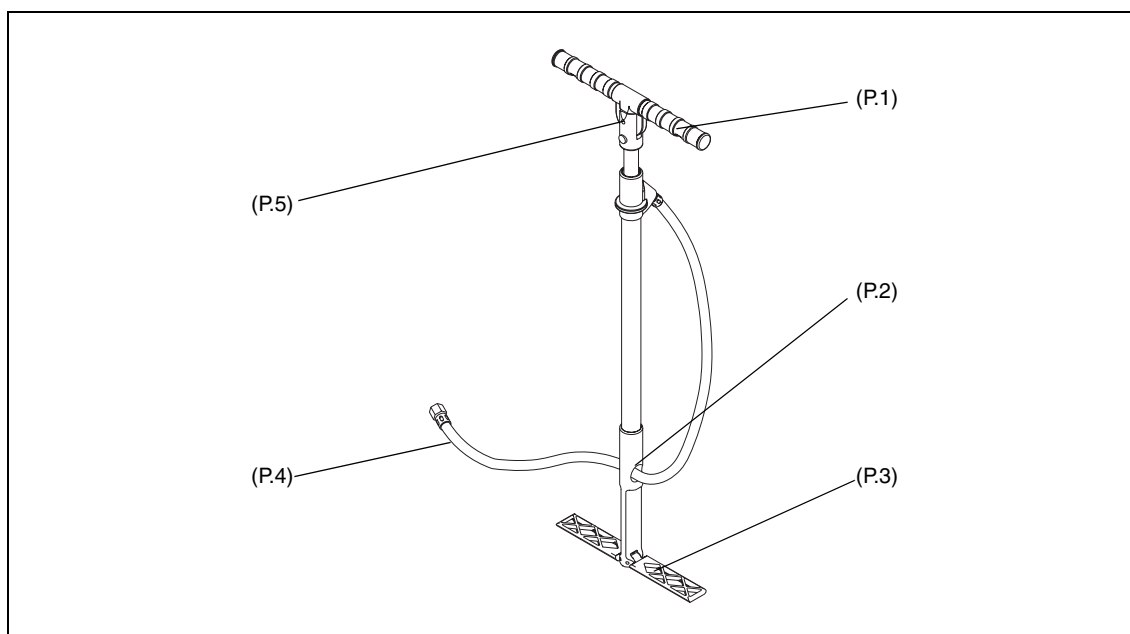
ホース (P.4) ペDESTALの給圧バルブから切り離しますが、この段階ではシュレーダーバルブキャップを取り付けしないでください。ホースを取り付けてあった位置 (P.2) に戻します。

ポンプのプランジャを完全に押し下げ、ハンドルのリリースボタン (P.5) を押し、ポンプのプランジャが閉じた位置でロックされる垂直の位置までハンドル (P.1) を動かします。



戻る

両方の脚 (P.3) を折りたたみます。



荷重の調整

ペDESTラルを加圧した後、以下の手順でパン & チルトヘッドと荷重が正しくバランスを保てるように調整します。
可動式コラム (6) を少なくとも 2 回、可動部全体に動かしてから、コラムの位置を中程の高さにします。



警告！ 圧力保持バルブによって、ペDESTラルの圧力が 3.5 bar (50 psi) 未満まで下がらないようになっています。

コラムが下降する場合は、調整ウェイト (1)(19) を取り外すか加圧してください。

コラムが上昇する場合は、シュレージャーバルブキャップ (16) を使用して圧力を 0.15 ~ 0.20 bar (2 ~ 3 psi) 刻みで減圧しす。



警告！ シュレージャーバルブキャップ (16) は、重要な封圧材です。必ずキャップを元に戻し、指先でネジを締め付けてください。

シュレージャーバルブキャップ (16) を元に戻します。

正しく加圧されたペDESTラルは、可動式コラムのオンショットストローク全体のどの位置であっても最小の力で動かすことができ、ステアリングリングを離れたときにその位置を維持できるようにバランスを保つことができます。

調整ウェイトを追加したり取り外したりして、細かいバランスの調整と温度に対する補正を行うことができます。

Quattro-SL ペDESTラルの使用



戻る

高さの調整

コラム (6) のオンショットストロークは 100 センチメートル (39.4 インチ) です。バランスをしっかりととれば、ステアリング・リング (4) を上げ下げすることにより、この距離まで荷重を動かすことができます。ドラッグ (17) に対して動きを調整できます。あるいは、高さを固定して操作したい場合には、オンショットクランプ (5) を使用して、移動コラムを一箇所に固定できます。マーク付け可能な高さ計がコラムのセカンドステージにあります。オペレータはこの高さ計により、作業している高さを記録し、撮影中にまた同じ高さに戻ることができます。



警告! 特に平らでない面上を移動させるときに安定性を最大限保つために、ペDESTALの高さを最低にしてください。
ペDESTALの高さを下げているときに、ステアリングハブやコラムの部品の間に指を挟まないように注意してください。

ドラッグコントロール

コラムの動作はドラッグについて調整可能となっており、これはカメラマンの好みに応じて可動コラムの底部にあるドラッグコントロール (17) を使用して設定します。コントロールを時計回りに回すとドラッグが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。

オンショットクランプ

高さを固定して操作したい場合には、ステアリング・リングの下にあるオンショットクランプ (5) を使用して、コラムを一箇所に固定することもできます。クランプを利用するには、リングを時計回りに最後まで回します。クランプを解除するには、リングを反時計回りに最後まで回します。

ステアリング

ペDESTALの方向の制御は、コラムの上部に取り付けられたステアリングリング (4) を回転させて行います。ステアリングシステムは、ギアによってステアリングリングと同じだけホイールを回転させます。これによって、たとえば台車に取り付けられたペDESTALでリングを 90° 回転させると、ペDESTALの方向も 90° 変わります。ステアリングリングには、クラブ / ステアペダル (15) の方向に正面を向くようにインジケータが付けられており、これをステアリング時の基準点として使用することができます。

各垂直面の中央にあるポジション インジケータ (12) によって、カメラマンはペDESTALに位置を正確に決めることができます。

ペDESTALには、足で操作できる切替機構によってクラブとステアを使い分けることができ、たとえば 1 つのホイールを操作し、2 つを固定しておくステア設定や、すべてのホイールと一緒に回転するクラブ設定を使用することができます。ペダル (15) を押すと、ペDESTALのクラブとステアを切り替える機構が動作します。

ホイールがどの位置にあってもボタンを押すことができますが、切替はホイールが前に向いているときにだけ行われるため、切替機構を使用する前にステアリングリングを 180° の位置まで回転させなければならない場合があります。この操作によって、クラブからステアに切り替えたときには、固定ホイールは常にまっすぐな方向を向いた位置でロックされます。

2 種類の径のステアリングリングと各タイプのステアリングインジケータを取り付けることができます (20 ページのステアリングリングの交換を参照してください)。

パーキングブレーキ

クラブ / ステアボタンの隣にある足で操作する赤色のボタン (14) はパーキングブレーキで、ホイールを操作することができます。



警告! このブレーキは、パーキングブレーキとして使用するように設計されています。ペDESTALを動作させているときには、ブレーキをかけないでください。

ブレーキを作動させるには、ボタンを押し下げます。ブレーキを解放するには、ボタンを再度押します。

ケーブルクランプ

基部の垂直面に 2 個のケーブルクランプ (13) が取り付けられています。

ケーブルガード



戻る

ベースのスカート部には、あらゆる位置が可能な途切れのない高さ調整ケーブルガードがあり、単一のノブ (10) によって上げ下げできます。ケーブルガードの高さは、調整ノブの下にあるケーブルガード高さ計 (11) に表示されま

す。
ケーブルガードを必要な高さに設定するには、調整ノブを回します。

ケーブルガードには、障害物上をペDESTALを引っ張って移動させたときに損傷を防ぐため、スプリング機構が組み込まれています。

運搬と保管



警告! Quattro-SL ペDESTALの質量は 150 kg (331 ポンド) あります。ペDESTALを持ち上げる際には注意してください。ステアリングリングを持ってペDESTALを持ち上げないでください。持ち手穴 (10) を使用してください。
加圧したペDESTALの運搬と保管には、地域、国または国際的な規制が適用されることがあります。

メモ: 運搬または保管する前には、ペDESTALの圧力を下げる必要があります。

ペDESTALの運搬と保管の準備は、以下の手順に従います。

可動式コラム (6) を完全に押し下げます。ウェイトトレー (2) を押し下げて、セーフティキャッチロッカースイッチ (3) をロック位置に戻します。



警告! 圧力保持バルブによって、ペDESTALの圧力が 3.5 bar (50 psi) 未満まで下がらないようになっています。

シュレダーバルブキャップ (16) を使用して、ペDESTALの圧力を 3.5 bar (50 psi) まで減圧します。



警告! 加圧したペDESTALは、セーフティキャッチが解放されているときには急激に上昇します。セーフティキャッチを解放しているときには、ペDESTALに寄りかからないでください。セーフティキャッチを解放しているときは、常にウェイトトレーに手をかけてコラムを押さえてください。

ウェイトトレー (2) を押し下げます。セーフティキャッチ (3) の位置で、ロッカー スイッチを解放位置にします。コラムを手で押さえながら伸ばします。

オンショットクランプ (5) を取り付けます。

4 本の取り付けボルトを取り外し、パン & テルトヘッドを取り外します。

ほこりなどが可動部品上に付着しないように、オンショットクランプ (5) を解放し、可動式コラムを最も低い位置にします。ウェイトトレー (2) を押し下げて、セーフティキャッチロッカースイッチ (3) をロック位置に戻します。

調整ウェイト (1)(19) をすべて保管場所 92) に固定します。



警告! このペDESTALは、立てた状態で運搬または保管してください。



戻る

サービス

全般的なサービス

Quattro-SL ペDESTALは、高度な技術基準でしっかりと製造されており、簡単な清掃を定期的に行うだけでメンテナンスに注意を払う必要はほとんどありません。長く修理をしないで使用していただくために、以下の点についてご注意ください。

定期的なメンテナンス

Quattro-SL ペDESTALは、通常の清掃以外に定期的なメンテナンスは必要ありません。

通常の使用時には、ステアリングの配置をチェックし、オンショットクランプの効果を確認し、可動式コラムの回転方向または横方向の遊びを確認します。

ステアリングの配置が狂っている場合は、ホイールを再調整します（19 ページのステアリングの位置合わせを参照してください）。

オンショットクランプが効かない場合、可動式コラムの回転方向または横方向の遊びが大きすぎる場合、または何らかの不具合が見られる場合には、メンテナンスマニュアルの該当するセクションを参照してください。

調整と修理は、資格を持つ担当者のみが行うことができます。

清掃

スタジオでの通常の使用では、不織布で定期的に拭き取りを行うだけで結構です。保管中または使用しなかった期間にたまったほこりは、堅すぎないブラシを使って取り除きます。コラム最上段の平面と、持ち手穴から清掃の行えるホイールについては特に注意してください。

メモ： コラムの露出した面に、オイルまたはグリスを使用しないでください。潤滑は不要であり、摩耗を起こすほこりが付着する原因となります。

不安定な条件の野外で使用する場合、特に厳しい環境で使用する際には注意が必要です。塩水がかかった場合は、できるだけ早く真水で洗い流してください。コラム内に水が入らないようにしてください。砂やほこりによって部品がすり減ることがありますので、堅すぎないブラシか掃除機を使用して取り除いてください。

メモ： 洗剤だけを含むクリーナを使用してください。製品の表面を傷つけるため、溶剤や油性クリーナ、研磨剤やワイヤブラシを使用してたまったほこりを取り除かないでください。



戻る

ステアリングの位置合わせ

ステアリングが不正確だと、ホイールの配置が狂い、ステアリングリングのがたつきや、ステアリングベルトやチェーンの緩みが生じます。

ホイールの配置が狂っていると思われる場合は、トラッキングのチェックを以下の手順で行います。

スタジオの床の直線上を最低 4 m (13 フィート) 引っ張ってみます。

ペDESTALが約 80 kg (176 ポンド) の荷重を運搬できることを確認します。

ペDESTALを「CRAB」に設定し、注意深くクラッチホイール（クラブ / ステアノブの下にあります）とフロントホイールの 1 つをスタジオの床面の直線に合わせます。

ペDESTALを直線に沿って 3.6 m (12 フィート) 押します。ペDESTALは、直線から 50 mm (2 インチ) 以上ずれてはなりません。

ペDESTALを最初の位置に戻します。ペDESTALは、直線から 50 mm (2 インチ) 以上ずれてはなりません。

クラブノブの下にあるホイールの方向と、他のフロントホイールの方向を、スタジオの床面上の直線に合わせて上記のチェックを繰り返します。

ずれが上限を超えている場合は、以下の手順でホイールの配置を再調整します。

ペDESTALからすべての荷重を取り外します。すべての調整ウェイトをウェイトトレイおよび保管場所から取り外します。

コラムを完全に押し下げた位置まで下ろしてロックします。

誰かの手を借りて、ペDESTALを反対向きにしてウェイトトレイを下側にします。ペDESTALが損傷しないように適切な道具を使用してください。

ケーブルガードを一番高い位置にするには、ケーブルガード調整ノブ (10) を回して、高さ計 (11) を一番上のスケールにします。

「STEER」を選択してホイールを回し、2 個のホイールがクラッチから最も遠い位置で正面を向いた位置にロックされるようにします。

各軸の持ち手穴 (9) を使用して、ロックネジ (9.1) を緩めます。

完全な直線（少なくとも 1 m (3 フィート) の長さのある）上を押して、2 組のホイールが正しい方向を向くようにします。ロックネジ (9.1) を締め付けます。

「CRAB」を選択して、すべてのホイールと一緒にロックされるまで回します。

クラッチホイールが他のホイールとほぼ同じ方向を向くまで回します。

クラッチホイールのクランプネジ (9.1) を緩めます。

直線上を押して、クラッチホイールのタイヤと他のタイヤが同じ方向を向くようにします。クラッチホイールのクランプネジ (9.1) を締めます。

2 番目のホイールに対するクラッチホイールの配置をチェックし、クラッチホイールから最も遠い 2 つのホイールの向きを再度チェックします。完全に調整できるまで、操作を繰り返します。

ロックネジ (9.1) が完全に締められていることを確認します。

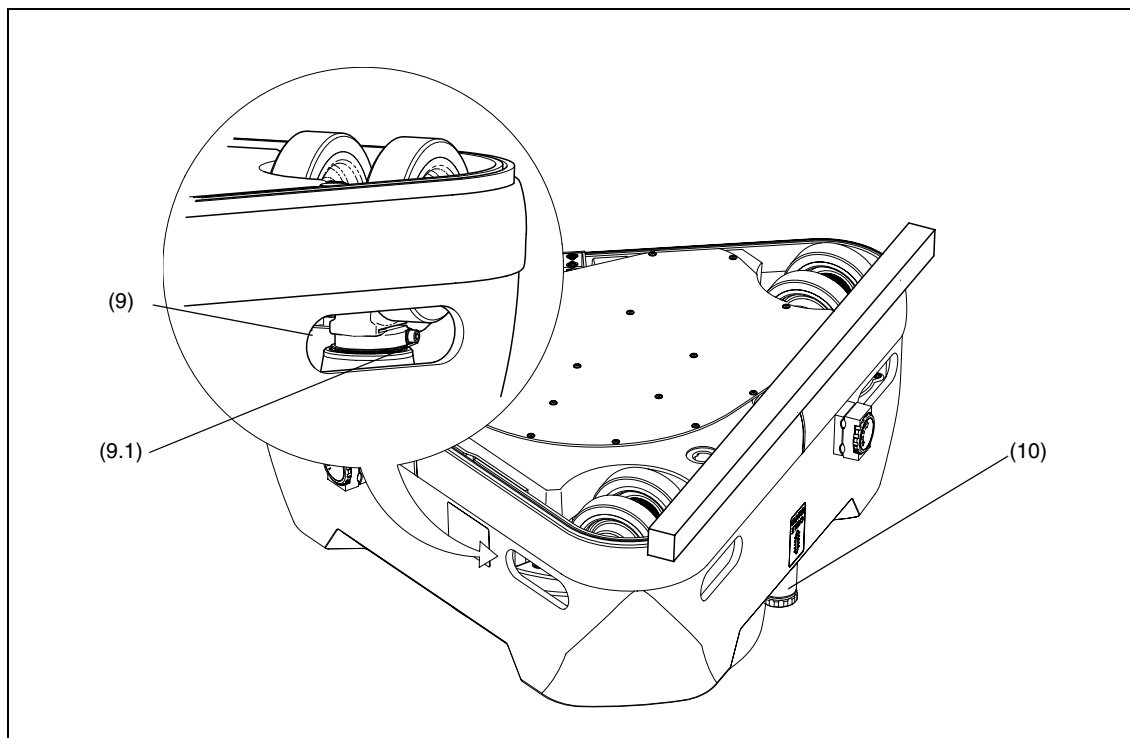
誰かの助けを借りて、ペDESTALの向きを元に戻します。

上述のトラッキング チェックを実行します。



戻る

まだステアリングに問題がある場合には、ステアリングリングのがたつきやステアリングベルトまたはチェーンの緩みが考えられます。メンテナンスマニュアルの該当セクションを参照してください。



ステアリングの位置合わせ

ステアリングリングの交換

Quattro-SL には 58.9 センチメートル (23 インチ) 口径または 74 センチメートル (29 インチ) 口径のステアリング・リングが装備されています。

メモ： モールド製インジケータ付きステアリングリングをリベット付きのものと交換、またはその逆に交換する場合は、ステアリング機構の再調整が必要になります。この作業は、メンテナンスマニュアルの該当するセクションに従って資格を持つ担当者が行います。

ステアリングリングを交換するには

コラムを完全に伸ばしてオンショットクランプをかけます。

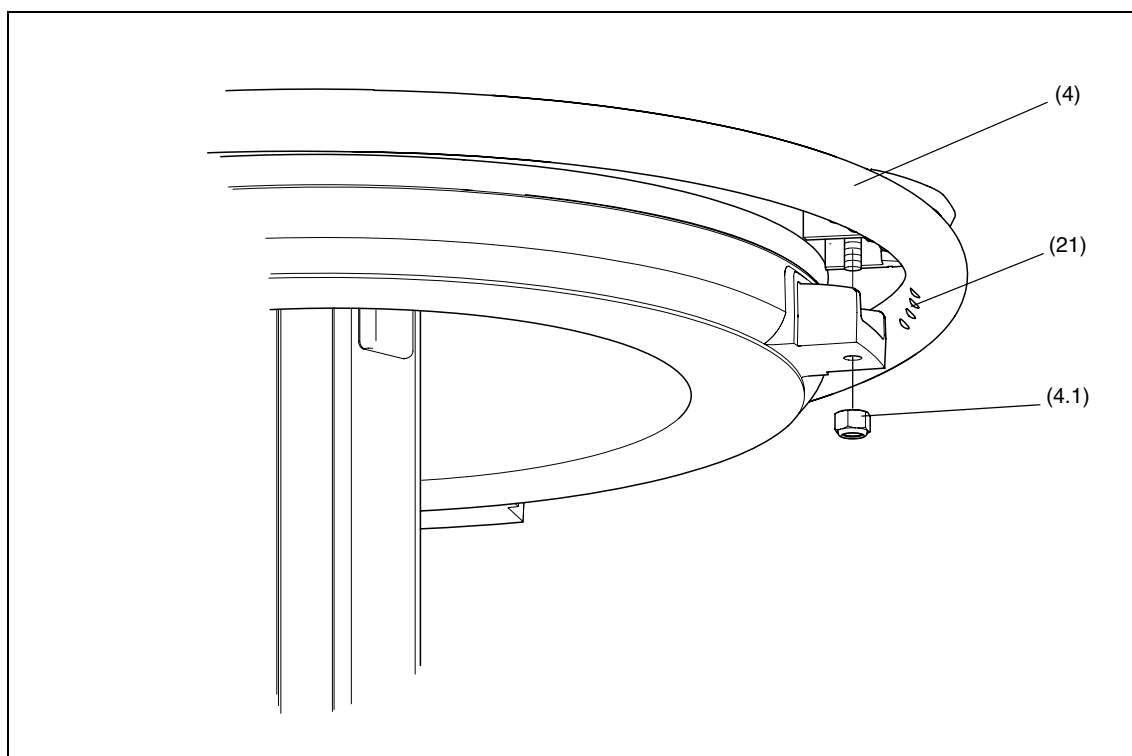
ステアリング・リング (4) を解除するには、ステアリングハブの下側にある 4 つのナイロックナット (4.1) を取り外します。ステアリング・インジケータの位置を注意しながら、ステアリング・リングを外します。

交換するステアリングリングを、上記の位置にあるステアリングインジケータに合わせてステアリングハブ上におきます。



戻る

4 つのナイロックナット (4.1) でステアリング・リングを固定します。



ステアリングリングの交換



戻る

部品リスト

以下のリストには、主要部品、ユーザーが交換可能なスペア部品およびオプションのアクセサリが記載されています。修理用または交換用部品についての詳細な情報は、Vinten Broadcast Ltd または地域の販売店にお問合せください。オンライン情報については、弊社の Web サイトをご覧ください。

www.vinten.com

部品	部品番号
Quattro-SL ペDESTAL, ブラック, 大型ステアリングおよびリベット製ステアリングインジケータ付き 調整ウェイト	V3963-0001
メイン	3445-47
予備	3445-48
小型径ステアリングリングリベット製ステアリングインジケータ付き ヘッドボルト用スパナ	V3850-1004 J551-001
ヴィンテンポータブルポンプ	3357-3